

# 令和5年度 第1回 ネイパル森運営協議会 議事録

\* とき／令和5年11月21日（月）

午後15時00分～16時30分

\* ところ／ネイパル森 大研修室

## 【出席者】

委員 5名／須藤 智裕（森町教育委員会社会教育課長）  
西尾 聡（森町立鷺ノ木小学校校長）  
鍋谷 雪子（株式会社 nabeya）  
小出 政彦（八雲町地域子ども会育成連絡協議会）  
丹崎 真由子（森町社会教育委員）  
本田 憲司（オブザーバー道教委社会教育主幹）  
事務局 2名／小野 俊英（所長）  
菊池 澄子（運営課長）

## 【欠席者】

委員 2名／山口 敏男（全国林業研究連絡協議会常任理事）  
佐紺 摂子（北海道森高等学校長）  
（他用務と重複のため）

1 開 会 <進行／菊池課長>

2 あいさつ

- ・ ネイパル森所長あいさつ

本会議出席のお礼と併せ、施設運営に関し、忌憚のない意見をもらい、地域における充実した教育活動、施設運営を目指したいとあいさつをした。

3 議長挨拶（西尾委員長）

上半期のまとめ、委員からの貴重な意見をもらい下半期につながる施設づくりに協力をお願いしたいとあいさつがあった。

4 報告事項<進行／西尾委員長>

(1) 令和5年度上半期（4から9）の利用状況

- ア. 延べ宿泊者数
- イ. 延べ利用者数
- ウ. 日帰り利用者数

アからウについて事務局から資料をもとに次の説明を行った。【資料1ページ】

- ・ 上半期は6,300人と新型コロナウイルス流行前(令和元年度)に比して63%と令和4年度に比べて回復してきているが、4月から6月の利用者は戻り切っていないと高校等の宿泊学習が新型コロナウイルス流行を境に中止や宿泊数を減少したことが要因と考える。
- ・ 8月から9月は新型コロナウイルス流行前に近づいてきている。
- ・ 下半期は、施設の特徴として利用者数が大きく減少する時期になり、過去においても2,300人程度の利用となっていることから、今年度の延べ宿泊者数は目標とした9,000人には満たない見込みである。
- ・ これまで無料としていた日帰り利用者からも令和4年度から利用料金を徴収

することで、利用者数の減少となったが、日帰り利用料金を徴収することで上半期は 157,000 円程度の収益を得ることができた。

- ・新規利用者が増えたことにより、ホテルと勘違いして利用した団体があるなどし、理解を得られなかったこともあり、満足度評価は低くなった。

・委員からは特段意見はなく、全ての報告内容は確認された

(2) 令和 5 年度上半期の収支状況

ア. ネイパル森指定管理会計に係わる会計 令和 5 年 4 月から 9 月及び今年度見込み

イ. その他事業（食堂・物販）会計 令和 5 年 4 月から 9 月及び今年度見込み

アからイについて事務局から資料をもとに次の説明を行った。【資料 2 ページ】

- ・令和 4 年 9 月に利用料金を見直したことで、コロナウィルス第 5 類に移行したこともあり、スポーツ少年団等の合宿が回復傾向にあるため、事業収入については年度見込みから 140 万円程の黒字になる見込みだが、冬期間の利用者数の落ち込みを減らすかがカギとなる。
- ・食材、物販収入については今年度一部の活動費を見直したため、収入予算は超えると予想されるが、物価高騰に伴う支出や設備修理費の支出増が見込まれるため、その他事業会計についての赤字は避けられないと予想される。

【委員】

活動費の見直しとは具体的にどのようなものか。

- これまでの活動費は原価相当の価格設定としていたが、木の実採取についても職員の労力も必要とされ、また活動に伴う消耗品についても価格に反映されていなかったため価格を見直した。

・他の委員からは特段意見はなく、全ての報告内容は確認された

(3) 上半期主催事業について

ア. 「ともリッチ」

イ. 「植樹祭」

ウ. 「ネイパルで水あそび」

エ. 「夏の大沼水まみれ」

オ. 「深掘りアイヌ」

カ. 「秘伝キャンプのコツ」(連休のため中止) → 「〇〇の秋」

アからエについて事務局から資料をもとに次の説明を行った。

【資料 3 ページ、別冊主催報告資料】

・道立、国立施設では利用形態を大きく 2 つに分けている。一つは施設が独自に行うものを「主催事業」といい、もう一つは利用団体が計画を立てて事前に職員が団体の代表者へ活動のレクチャーを行い、当日は職員が活動の概要を説明し、その後は団体の代表者が活動の指導を引き継ぐ「受入事業」がある。

・ともリッチについては令和 4 年度に行い反響が大きかったため、今年度も実施したが、次年度は行う予定はない。植樹祭は今年度で終了となる。ネイ

パルで水遊びは、親子を対象とした川遊びを行ったが、安全管理を徹底した上で非日常を味わうことができた。夏の大沼水まみれは、「北海道子ども会連合会」の行う北海道子供キャンプとの同時開催として行い団体との連携に苦労したが、36万円ほどの補助で筏を制作した。深掘りアイヌは昨年同様に大人向け事業のため、集客には苦労したが、札幌圏からの参加もあった。秘伝キャンプのコツは連休中に複数の利用希望団体が入ったため中止とし、「〇〇の秋」と振り替えて別事業を行った。

#### 【委員】

ネイパルの事業評価は高く、非日常を経験できるのはネイパルの特徴

#### 【委員】

アイヌ文化を行うなら“ウポポイ”にチラシを置いても効果があったのではないか。また、縄文については函館教育大学の奥平教授が旅行会社と提携し道南2泊3日で10カ所巡るほど詳しい。

➤ 今後は学校頼りだけの集客は難しい。

#### 【委員】

インスタグラムを活用しては。

➤ インスタグラムは更新していなかったが、再開した為、今後活用する。

#### 【委員】

高齢者はネット環境よりテレビ系の方が良いと思う。NCVを活用しては。

➤ 今後検討したい。

・他の委員からは特段意見はなく、全ての報告内容は確認された

#### (4) その他

・ネイパルバスの修理が困難となったため、廃車としそれに伴い無料送迎サービスを終了する

➤ 今後、バスを利用した主催事業についてはバスの借り上げ先に目途がついたので、借り上げることで対応したい。

・他の委員からは特段意見はなく、全ての報告内容は確認された

### 5 協議事項

#### (1) 下半期の取組について

ア 主催事業について【資料3ページ、別冊主催資料一覧参照】

資料に沿って説明した。すでに終えた事業は受入れの際に利用した代表者へ講師としてお願いして実現した。冬の事業では自然をダイナミックに生かし約20年振りに大沼徒歩横断の事業を計画している。

・委員からは特段意見はなく、上記の協議内容は承認された。

イ 下半期の利用者獲得に向けて

・繁忙期（7月～9月）を避け閑散期に事業を多く開催することとして計画し

ている。その反面事業がたて続けとなったため、令和6年度は開催日程を改善したい。また、YouTubeチャンネルを開設したため、動画配信も行いこれまでと同様にチラシ配架依頼を行うこととしている。

- ・委員からは特段意見はなく、上記の協議内容は承認された

## (2) 来年度の事業の方向性

- ・道教委から年間12本の主催事業を実施することとされている。次年度も多くの体験機会を提供したい。繁忙期は受入れ利用を優先するため、4月、5月、3月にも事業を設定し、秋以降の閑散期を中心に事業日程を設定する。

### 【委員】

親子で参加できる主催事業は未就学児対象が多く、小学4年生でも親子なら参加したいという声もあるため、今後検討して欲しい。

- 貴重な意見のため、今後の参考にしたい。

### 【委員】

いかだ体験を親子対象にしてみてもは。

### 【委員】

防災は全国的に注目度が高く、自衛隊に派遣依頼すると、関係車両・災害食また被災した際の対応も学ぶことができ、反響が大きい。ただし、計画するには1年前から打診が必要。また、自衛隊の目的はPRも兼ねているので、ネイパルの目的には見合わない可能性もある。

- ・委員からは他に特段意見はなく、全ての協議内容は賛成多数のため承認された

すべての議事が終了し、西尾委員長の議事進行を終了する。

以上をもって、令和5年第1回運営協議会を終了し、解散する。